ニュース

【報道】学生自主企画活動「長期運用可能な無人火山観測装置の開発と噴煙観測システムの提案」

[Topics] 2016年01月18日

本プログラムの一環である学生自主企画活動「長期運用可能な無人火山観測装置の開発と噴煙観測システムの提案」で開発したカメラシステム2台（バッテリー形式、AC電源方式各1台）が仙台管区気象台の冬季カメラの実証実験の比較対象機として運用されています。

NHK
冬期の火山監視カメラ 蔵王山で実験開始
1月17日 22時53分
http://www3.nhk.or.jp/news/html/20160117/k10010375481000.html

仙台放送
冬の間も蔵王山の火口監視へ　新たなカメラの実証実験
2016年01月18日
http://ox-tv.jp/nc/p/search_list.aspx?t=share&d=20160118&no=56

仙台放送
「いのちを守る　新たな災害対策の必要性がわかってきました」
2016年01月21日
http://ox-tv.jp/nc/share/?d=20160121&no=29

冬の間も蔵王山の火口監視へ　新たなカメラの実証実験

2016年01月18日

仙台管区気象台は、冬の間も蔵王山の火口を監視できるよう、新たな監視カメラの実証実験を行っていることを、18日に明らかにした。 これは、宮城と山形の自治体でつくる、蔵王山の火山防災協議会の会議で、気象台が明らかにしたもの。 実証実験は、2015年12月から、山形県側の山頂付近で行われている。 新たな監視カメラには、雪を溶かすためのヒーターを内蔵したものや、雪を落とすために、回転する球体状のカメラなど、5台が設置されている。 気象台によると、火山監視カメラの着雪に対応する実験は、全国で初めてという。 仙台管区気象台の永岡利彦火山防災情報調整官は「観測環境としては、厳しい気象条件となっているので、どういう対策をしていけばいいのかを検討していきたい」と述べた。 気象台は、2015年11月から、山形県側に火口監視カメラを設置しているが、12月下旬から、着雪により撮影できないため、今回の実験で、改善策を検討していきたいとしている。

いのちを守る　新たな災害対策の必要性がわかってきました。

2016年01月21日

災害への備えや震災の教訓を後世に伝える取り組みについてシリーズでお伝えする「いのちを守る」。 21日は、2015年に一時、火口周辺警報が出されるなど、火山活動が活発化した蔵王山についてです。 冬の期間の噴火で溶けた雪が、土砂を巻き込んで町を襲う「融雪型火山泥流」の被害などに対する避難計画を自治体が公表するなど、災害対策や研究が進む一方で、新たな災害への備えの必要性もわかってきました。 宮城・蔵王町では、土砂災害や洪水についての「ハザードマップ」は、すでに、7年前の2009年に作成しています。 町のウェブサイトに掲載されていますが、これとは別に、蔵王山に火口周辺警報が発表されたあと、2015年10月、火山に関する「防災マップ」を公表しています。 これらの2つの情報を合わせて発信する必要性を、東北大学リーディング大学院の久利美和講師は指摘しています。 観光客に対しても、一目で見てわかる新たなマップを、行政が発信していく必要性があると思われます。